

[成果情報名] 水稻早生有望品種「ふっくらももこ」の栽培特性

[要約] 「ふっくらももこ」は水稻早生の早で、「どんとこい」に比べやや低収であるが、早植栽培ではほぼ同等である。外観品質は優れ、食味は「ヒノヒカリ」並の極良食味である。出穂後の高温によって発生する背白粒の発生は少なく高温登熟性が優れる。

[キーワード] イネ、ふっくらももこ、早生の早 品質 極良食味 高温 背白粒

[担当] 総合農林試験場・作物部・作物品種科

[連絡先] 電話 0957-26-3330、電子メ - ル j-koga@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 農産

[分類] 指導

[背景・ねらい]

本県の水稲作付はヒノヒカリに集中し、栽培面積の約7割を占めており、ヒノヒカリへの集中を緩和させるため、その前後の収穫期の品種を早急に選定することが望まれている。また、ヒノヒカリより熟期の早い早生種「どんとこい」は、品質、食味に対する評価が低く作付面積は減少しており、良品質、良食味の早生種の選定が望まれている。

[成果の内容・特徴]

「ふっくらももこ（岡山57号）」（キヌヒカリノコシヒカリ：岡山県農業総合センター - 農業試験場育成）は「どんとこい」と比較して次のような特性を有する。

- 1．出穂期は同程度、成熟期は3日程度早い“早生の早”である（表1）。
- 2．稈長は同程度で、耐倒伏性は“強”である（表1）。
- 3．穂数はやや少なく、穂長はやや長く、一穂粒数はやや少ない（表1）。
- 4．千粒重はやや軽く、収量はやや低収であるが、多肥および早植栽培ではほぼ同等である（表1）。
- 5．乳白粒、背白粒の発生が少なく、外観品質は優れる（表1）。
- 6．食味は優れ、「ヒノヒカリ」並の“極良食味”である（表2）。
- 7．出穂後の高温によって発生する背白粒の発生は少なく、高温登熟性が優れる。（表3）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．現地試験等に供試し、生産現場での評価に活用する。
- 2．高温登熟性が優れるので早植による9月上旬出荷対応が可能である。
- 3．いもち病圃場抵抗性は“やや弱”である（育成地）。